

環境対応型ウレタン塗膜防水材

アーキルーフUA エコ

ウレタン塗膜防水材が、

さらに環境に優しくなりました。



屋上やバルコニーの防水・保護に ウレタン塗膜防水材料が環境対応型に進化

環境対応型ウレタン塗膜防水材料「アーキルフUAエコ」は、
ウレタン塗膜防水材料に求められる防水性能を満足するとともに、特定化学物質障害予防規則の
対象物質に該当せず、厚生労働省の室内環境汚染に関するガイドライン13物質も配合しておりません。
また、上塗りに水性ウレタン樹脂系の水性アーキトップUを使用することで、
より環境に優しい工法となります。

アーキルフUAエコが環境に優しい理由

▶ 特化則対象物質規定量限界以下

従来のウレタン塗膜防水材料に含有されていたTDI(トリレンジイソシアネート)の含有量は規定限界以下、MOCA(3,3-ジクロロ-4,4-ジアミノフェニルメタン)は含有していません。

そのため、特定化学物質障害予防規則の適用にはならないため、現場での取り扱いについても規制が緩和されます。

▶ トルエン・キシレンフリー

臭気の要因の一つであり、PRTR法の規制対象物質でもある溶剤のトルエン・キシレンを配合していないため、従来品と比較して低臭です。

▶ 鉛・クロムフリー

有害な重金属である鉛・クロムを含有していません。

▶ 厚生労働省の指定13物質を配合しない

厚生労働省で室内環境濃度基準の指針として指定された13物質を配合していません。

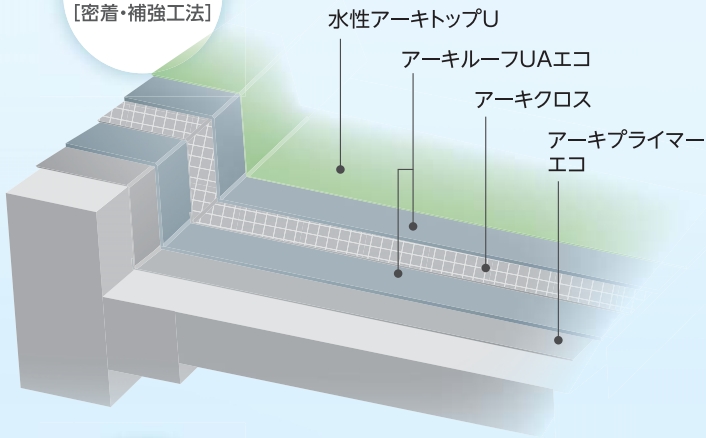
物質名	室内濃度指針値(μg/m ²)	アーキルフUAエコ
ホルムアルデヒド	100(0.08ppm)	配合せず
トルエン	260(0.07ppm)	配合せず
キシレン	870(0.2ppm)	配合せず
パラジクロロベンゼン	240(0.04ppm)	配合せず
エチルベンゼン	3800(0.88ppm)	配合せず
スチレン(モノマー)	220(0.05ppm)	配合せず
クロルピリホス	1(0.07ppb) 小児0.1(0.007ppb)	配合せず
フタル酸ジ-n-エチルヘキシル	220(0.02ppm)	配合せず
テトラデカン	330(0.04ppm)	配合せず
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	120(7.6ppb)	配合せず
ダイアジノン	0.29(0.02ppb)	配合せず
アセトアルデヒド	48(0.03ppm)	配合せず
フェノブカルブ	33(3.8ppb)	配合せず



工程図イメージ

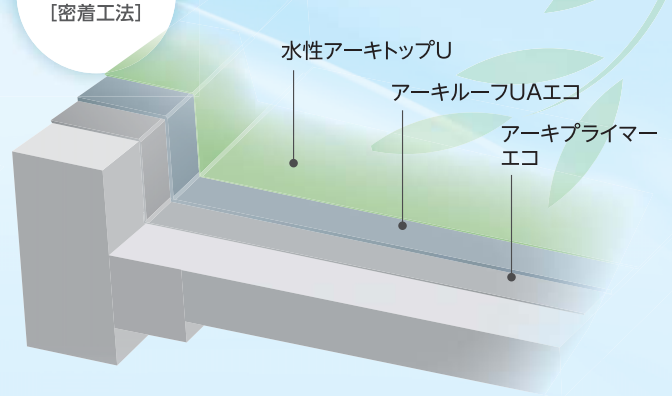
SR工法

[密着・補強工法]



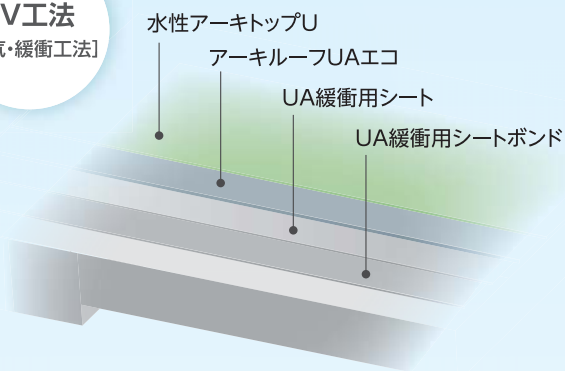
SN工法

[密着工法]



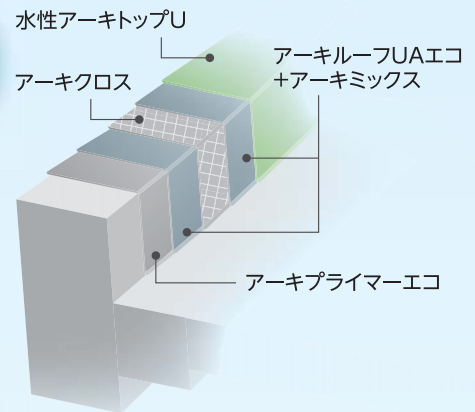
SV工法

[通気・緩衝工法]



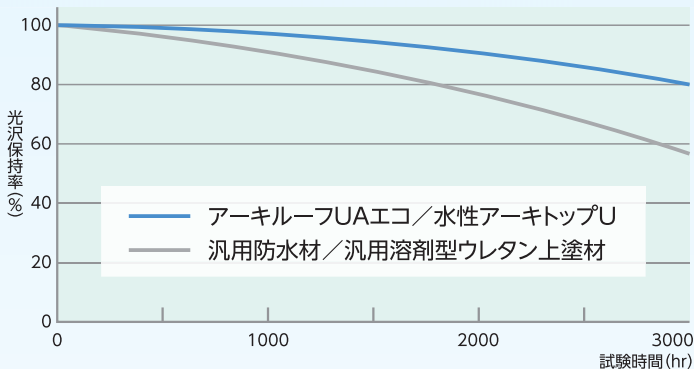
VT工法

[立上り工法]

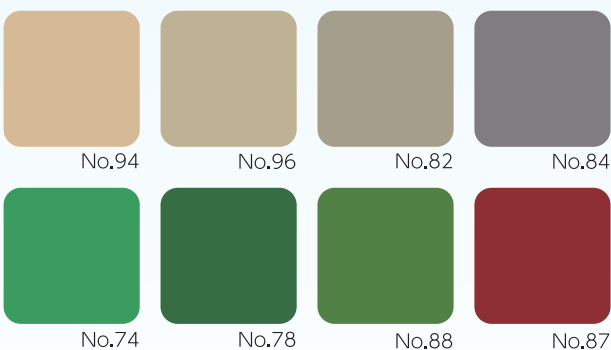


※この他、フルタイトUAエコを使用した遮熱工法もあります。詳細は、最寄りの営業所に別途お問い合わせください。

促進耐候性試験結果 (キセノンウェザーメーター)



標準色 (水性アーキトップU 8色)



※標準色の色目は印刷のため、実物と多少異なる場合があります。

試験成績表

JIS A 6021 建築用塗膜防水
屋根用ウレタンゴム系高伸長形による物性結果

項目		結果	性能	
引張性能	引張強さ(N/mm)	試験時温度 23℃	3.2	2.3以上
		試験時温度 -20℃	5.1	2.3以上
		試験時温度 60℃	2.1	1.4以上
	破断時の伸び率(%)	試験時温度 23℃	708	450以上
		試験時温度 -20℃	385	250以上
		試験時温度 60℃	235	200以上
引裂性能	引裂強さ(N/mm)	15	14以上	
加熱伸縮性能	伸縮率(%)	-0.2	-4.0以上~1.0以下	
劣化処理後の引張性能	引張強さ比(%)	加熱処理	108	80以上
		促進暴露処理	88	60以上
		アルカリ処理	90	60以上
		酸処理	89	80以上
	破断時の伸び率(%)	加熱処理	725	400以上
		促進暴露処理	700	400以上
伸び時の劣化性状	アルカリ処理	725	400以上	
	酸処理	717	400以上	
	オゾン処理	合格	いずれの試験片にもひび割れ及び著しい変形が表わらない	
固形分(%)		合格	表示値±3.0	
硬化物密度(Mg/m)		合格	表示値±0.1	

標準施工仕様

SR工法フラット仕上げ／3mm厚仕様

(23℃)

工程	材料	割合 (重量比)	塗付量 (kg/m)	塗回数	間隔時間 (hr)			備考
					工程内	工程間	最終養生	
下地調整	・下地はよく乾燥させ、含水率8%以下、pH10以下としてください。 ・付着物は完全に除去し、傷や不陸などは補修調整してください。							—
1 下塗り ※1	アーキプライマーエコ	既割合	0.20	1~2	3以上 6以内	3以上 6以内	—	ローラー 刷毛
2 主材塗り①	アーキルフUAエコ 主剤	50	0.4	1	—	適宜	—	こて へら
	アーキルフUAエコ 硬化剤	100						
補強布貼り	補強布「アーキクロス」を貼る ※2				—	—	—	—
3 主材塗り②	アーキルフUAエコ 主剤	50	3.8	2	8以上 24以内	24以上 3日以内	—	こて へら
	アーキルフUAエコ 硬化剤	100						
4 上塗り	水性アーキトップU 主剤	100	0.20	2	4以上 24以内	—	24以上	ローラー 刷毛
	水性アーキトップU 硬化剤	10						
	清水	0~10						

SR工法防滑仕上げ／3mm厚仕様

(23℃)

工程	材料	割合 (重量比)	塗付量 (kg/m)	塗回数	間隔時間 (hr)			備考
					工程内	工程間	最終養生	
下地調整	・下地はよく乾燥させ、含水率8%以下、pH10以下としてください。 ・付着物は完全に除去し、傷や不陸などは補修調整してください。							—
1 下塗り ※1	アーキプライマーエコ	既割合	0.20	1~2	3以上 6以内	3以上 6以内	—	ローラー 刷毛
2 主材塗り①	アーキルフUAエコ 主剤	50	0.4	1	—	適宜	—	こて へら
	アーキルフUAエコ 硬化剤	100						
補強布貼り	補強布「アーキクロス」を貼る ※2				—	—	—	—
3 主材塗り②	アーキルフUAエコ 主剤	50	3.8	2	8以上 24以内	24以上 3日以内	—	こて へら
	アーキルフUAエコ 硬化剤	100						
4 上塗り	水性アーキトップU 主剤	100	0.20	2	4以上 24以内	—	24以上	ローラー 刷毛
	水性アーキトップU 硬化剤	10						
	エストップ#20 ※3	1~2						
清水	0~10				—			

※1. この他、水性タイプの水性アーキプライマーエゴ、★アーキプライマーNもご使用頂けます。

※2. 予め主材塗り①としてアーキルフUAエコを0.4kg/m塗付し、アーキルフUAエコが乾燥しないうちに、補強布貼りを行ってください。なお、主材塗り①から主材塗り②までの工程間隔時間は8日以上24以内としてください。

※3. エストップ#40もご使用頂けます。

※4. その他工法につきましては、別途お問い合わせください。

施工上の注意点

- 強風時、または降雨、降雪のおそれがある場合、及び気温5℃以下、湿度85%以上での施工は原則的に避けて下さい。気温5℃以下で施工が要求される場合は、探照及び探照のための養生により、雰囲気温度、被塗面温度を5℃以上にしてください。冬期においては、施工条件が特に厳しくなる場合があるため、事前に関係者と十分な打ち合わせを行ってください。
- 低温または高温時には、乾燥が遅くなりますのでご注意ください。
- シーリング材の上へ施工する場合、シーリング材の種類、材齢により、塗膜が密着しないことや汚染することがあります。詳しくは最寄りの各営業所までお問い合わせください。
- 下地はよく乾燥させ、含水率8%以下、pH10以下としてください。コンクリート、モルタル打設後は、夏季で約2週間以上、冬季で約3週間以上の養生を目安としてください。
- 降雨、降雪直後は、全体の含水率が高くなり、膨れ、剥がれなどの異状が発生する恐れがありますので、必ず2日以上下地を乾燥させ、所定の含水率になってから施工を行ってください。
- 材料は規定の範囲内の希釈を厳守し、電動ミキサーなどを用いて内容物が均一になるよう十分に攪拌してください。二液の場合、材料は、開缶後十分に攪拌してから、必ず計量器を利用して、製品缶に記載の比率を厳守して正確に混合してください。異なった比率で混合すると、硬化不良、塗膜異状の原因となります。また、材料の混合後は、可使用時間内に使い切るようにしてください。可使用時間を経過したものを使用しますと、膨れ、硬化不良、付着不良などの原因となります。
- 材料の割合量は、一回の仕事量に合わせて割合してください。
- 塗り重ね時間は環境(温度、湿度、換気、風通しやすさ)や膜厚によって変わります。
- 塗付量は被塗物の形状、素地の状態、塗装方法、気象条件、希釈率等の各種条件により、増減します。
- 十分な塗膜性能を確保するため、所定の塗回数、塗付量、膜厚を確保してください。
- 性能に支障をきたす可能性がありますので、当社指定以外の材料を混ぜないでください。
- 夏季の気温上昇並びに材料が直射日光に当たることなどにより、材料の可使用時間が短くなりますので、早めに材料を使い切ってください。
- 通風の悪い場所での施工は、防毒マスクを着用すると同時に換気器具を設置し、換気を十分に行ってください。
- 材料が目に入らないよう保護メガネを着用してください。また、万一目に入った場合は、清水で目を十分に洗浄し、医師の診断を受けてください。
- 施工後は石鹸水でよく手を洗い、十分にうがいをしてください。
- 溶剤形の材料を扱う際は、火気に十分に注意してください。
- 住民の安全確保のため、資材置場には立ち入り禁止や火気厳禁などの表示を行ってください。
- 材料の保管時は、直射日光の当たらない風通しの良い場所で保管してください。

荷姿

製品名	入 目	標準塗坪
★アーキプライマーエコ	16kg石油缶	80㎡/16kg缶
★アーキプライマーN	16kg石油缶	80㎡/16kg缶
水性アーキプライマーエゴ	主剤:8kg石油缶、硬化剤:4kgポリ容器	60㎡/12kgセット
★アーキルフUAエコ	主剤:6kg缶、硬化剤:12kgペール缶	4.7㎡/18kgセット
★UA促進剤	1kg缶	—
☆水性アーキトップU	主剤:15kg缶、硬化剤:1.5kg缶	82㎡/16.5kgセット
アーキクロス	1.05×100m巻	100㎡/巻
エストップ#20	12kg袋	—
エストップ#40	12kg袋	—
★アーキエコシンナー	16L石油缶	—

※上記の標準塗坪は一般的なものであり、下地の状態や環境などによる所要量の増減に応じて変わることがあります。ご了承ください。

【危険情報と安全対策】

製品の取り扱いには、それぞれの安全データシート(SDS)に従ってください。特に★印のついている製品は溶剤形のため、下記の点にご注意ください。(☆印は硬化剤のみ★印に該当)

1. 引火性の液体であるため、火気厳禁です。
 2. 有機溶剤中毒の恐れがあるため、換気に注意し、防毒マスクまたは送気マスクを使用するなど安全対策を行ってください。
 3. 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように充分注意してください。
- ※屋内作業等、使用環境によっては、特定化学物質障害予防規則、有機溶剤中毒予防規則等の規制を受ける場合があります。詳しくは別途、施工仕様書等をご確認ください。

【施工後の注意】

本製品には揮発性の化学物質が含まれております。塗装直後の引渡し等において、化学物質過敏症やアレルギー体質の方への安全対策に十分留意してください。

アーキルフUAエコは原則として、無希釈です。やむを得ず粘度調整を行う場合は、アーキエコシンナーにて、主剤、硬化剤混合時の5%を上限に希釈を行ってください。
規定量以上の希釈を行いますと、硬化不良や仕上がりが不良の原因となります。また、硬化を促進させる場合は「UA促進剤」をご使用ください。なお、添加量の上限は施工気温により異なります。
詳細は右記の表をご参照ください。

UA促進剤のアーキルフUAエコに対する添加量の上限

施工温度	5~15℃	15~25℃	25℃以上
18kg/セットに対する添加量の上限	180g(1%)	90g(0.5%)	—

※UA促進剤の上限の添加量は、施工16時間後に歩行可能となる目安です。

※UA促進剤の添加量はあらかじめ試験塗りをし、添加量の上限以内で決定してください。



エスケー化研株式会社

本 社 大阪府茨木市中穂積3-5-25 ☎072-621-7733 / 沖縄営業所 ☎098-862-5041

札幌支店 011-784-4000 / 東京支店 03-3204-6601 / 埼玉支店 048-686-2391 / 名古屋支店 052-561-7712 / 大阪支店 072-621-7721 / 広島支店 082-943-5043
仙台支店 022-259-2431 / 千葉支店 043-304-0411 / 横浜支店 045-820-2400 / 京都支店 075-646-3967 / 神戸支店 078-671-0451 / 福岡支店 092-629-3427

このパンフレットに記載の商品は、予告なしに仕様や取り扱いを変更することがあります。また、このパンフレットに記載の内容について、無断転載・複製を禁じます。特記仕様がある場合は、これを最優先にしてください。詳しくは最寄りの各営業所へお問い合わせください。

URL <http://www.sk-kaken.co.jp>

[製作年月：2017年5月] (170507.KO-1)